

平成24年度第1回鎌ヶ谷市史編さん審議会議事録

- ①開催日時 平成 25 年 2 月 8 日（金） 13：30～15：30
- ②開催場所 鎌ヶ谷市立図書館 3 階 保育室
- ③出席者 委員 下津谷委員、村田委員、横山委員、関根委員
職員 川西教育長、阿久津生涯学習部次長兼文化スポーツ振興課長、
小林郷土資料館長、立野副主幹
- ④議題 以下の通り

1 開会

開会に先立って、小林館長より、
あらためて報告があった。

2 教育長よりあいさつ

川西教育長から、市史編さん審議会委員の尽力に対して御礼が述べられた後、今後も引きつづきご支援を願う旨あいさつがあった。

3 会長・副会長の選出

委員委嘱後最初の審議会であるため、鎌ヶ谷市史編さん審議会条例第四条に基づき委員の互選によって会長・副会長を選出した。

→横山謙次委員から、会長に下津谷達男委員、副会長に村田一二委員をそれぞれ推薦する提案があり、異議なく了承された。

⇒会長に下津谷達男委員、副会長に村田一二委員をそれぞれ選出した。

4 会長のあいさつ

下津谷会長より再任のあいさつがあった。

※会長挨拶後、教育長は所用により退席した。

5 議事

■(1) 平成 24 年度鎌ヶ谷市史編さん事業の進捗状況報告について

立野副主幹より資料 1、2 に基づき説明があった。

質疑

【下津谷】 『鎌ヶ谷市史』資料編Ⅳ・下（近・現代 2）制作に当たって、新聞記事を使用するため当初予算になかった約 14 万円を新聞社に対して支出している。新聞を利用する手続きと言うのは権利上難しい問題があるのか。

【立野】 会社による。過去の新聞記事を用いて事業展開している会社は有料であることが多く、まだ事業展開していない会社は無料であることが多い。いずれにせよ社によって対応は異なる。

⇒質疑の後、議事（1）は異議なく了承された。

■(2) 平成 25 年度鎌ヶ谷市史編さん事業計画(案)について

立野副主幹より資料 3、4 に基づき説明があった。

⇒質疑、異議ともになく、議案（2）は了承された。

(3) 後期基本計画第 2 次実施計画における市史編さん事業について

立野副主幹より資料 5 に基づき説明があった。

質疑

【村田】 実施計画では 28 年度に『鎌ヶ谷市史』下巻が刊行し、出版物としては形は全部終わる。それがあって市史も終了ということになったと思われるが、それによると 29 年度は 0 円になっている。市史自体の編さん業務のあり方について、29 年度以降事務局としてはどのような考え方をしているのか、またどのような考え方を持って交渉したのかについて、詳しく聞かせて欲しい。刊行物は終わりだが、『鎌ヶ谷市史研究』はどうなるのか、いままで積み重ねてきた市史の資料の収集・保管・研究などもある。こういったスタンスで話してきたのか。

【小林】 企画財政課との話しあいのなかで、鎌ヶ谷市史の予算充実に当たっては、市の予算の削減があるなかで、随分後回しにされてきた経緯がある。

そうしたなか、後期基本計画では、第 1 次実施計画、第 2 次実施計画において、通史の編さんについては要求に対して満額の回答を得ている。まずは通史の下巻の刊行を最優先するという事で企画財政課と意見は一致した。

刊行が完結したのちの展開については、立野が説明したとおり、市史編

さんの過程で収集した膨大な資料を市民の方々が容易な形でアクセスできるようなデータベース化や、『鎌ヶ谷市史研究』を引き続き刊行できるようにすることなど要求はした。だが、まずは市史を完結させるとともに、平成 27 年度を初年度とする第 3 次実施計画策定のなかで企画財政課と議論を詰め、29 年度以降の予算要求を行いたい。

その際、市史編さん事業という名目で計上できなくとも、あらたな事業を起こし実施計画のなかに位置づけてもらえるようにしたい。

【横 山】 当然市史編さんが終われば集めた史料の活用について考える必要がある。ほかの市町村では所蔵者に返却する例もある。そうした史料の追跡調査などはどうなっているのか。

【立 野】 当市では、大きな史料群はまだ個人宅に所蔵されている。史料借用の折に触れて訪ねており、良好な関係の維持に努めている。各宅でも大事に史料を保存していただいております。そういったこともあるので、史料の散逸といった自体が起こるとは当面考えられない。また、資料館の収蔵スペースの関係から、個人宅で保管していただいている現状がありがたいという側面もある。

【横 山】 市史刊行事業が終了すると、刊行が終わったから所有者はもう使わないんじゃないかと思ったり、私が知っている例では、代替わりのどさくさのなかでネット上で売買されてるようになってしまったものもある。

引きつづき、改訂版など今後の補充という形も考える必要があるので、市史の研究の予算を認めてもらい、資料の保全を含めて配慮して欲しい。

【下津谷】 確かに資料の所蔵者でも、印刷した本ができあがると、もう原本の史料はいらないだろうと考える人もいる。こんなの汚い、と。また、昔は襖の下張りにしたんだろうけど、最近はお金になることを所蔵者もある程度知っている。ネットに出るとということも当然ある。その点は注意していただく必要がある。出来ればご寄贈いただいて、資料館の資料として未来永劫残していくことが理想的ではある。

【横 山】 この間の話は、古本屋が一括して購入したけれど、一括だと高く売れないから切り売りしたということだった。

【下津谷】 博物館・資料館が中心になって収集や修理を行うため、予算などが必要になってくるはずである。また、市史編さんが終わっても、収集した資料については責任がある。そういった問題については資料館で踏み込んでもらいたい。

市史編さん事業については刊行物が出たらおわりだと考える向きもあるが、そうではない。市史編さん事業というのはずっと続く。新しい資料は続々と出てくる。その意味では編さん事業は本として出すのが終わっても、編さん事業はさらに続くというスタンスでやっていただきたい。

【横 山】 埋もれた資料をそのままにしないということ、念頭に置いてやっていく必要がある。

【下津谷】 市史編さん事業も、本が一旦終わっても、あと 20 年 30 年先にはまた始ま

るわけだから。

⇒質疑の後、議題（3）は了承された。

6 その他

■(1) 平成 23 年度企画展及び第 13 回ミニ展示の実績報告について

立野副主幹より資料 6、7 に基づき報告があった。

※質疑なし。

■(2) 平成 24 年度企画展について

立野副主幹より資料 8 に基づき報告があった。

質疑

【下津谷】 企画展関連企画として開催される佐津間地区の文化財探訪ではどこを訪ねるのか。

【立野】 佐津間地区では、北部公民館に集合し、北方前、藤ヶ谷飛行場引き込み線跡、宝泉院、大宮神社、渋谷家住宅などを訪ねる。

■(3) 平成 25 年度の資料館展示について

立野副主幹より資料 9 に基づき報告があった。

質疑

【阿久津】 中央公民館（三橋記念館）は、当初平成 25 年 11 月閉館予定だったが、（仮称）鎌ヶ谷市文化センターの完成が平成 26 年 3 月中旬となったため、中央公民館の閉館もその時期までずれ込む予定である。文化センターについては 26 年 4 月開館予定であるので、11 月閉館と記してある配付資料の訂正していただきたい。

【下津谷】 文化センターには展示室を設けるのか。

【阿久津】 展示室という形ではないが、180 m²の集会室がある。また、学習室の一つに展示ケースを備え付ける予定である。文化センターの入り口には、絵画などを飾れるように可動式・キャスター付きの展示パネルを設置する。ホール内部にはホワイエがあり、そこにも展示スペースがある。鍵がかかる展示スペースは集会室と学習室となる。

【下津谷】 出来たばかりの建物の場合、一時的な展示ならよいが、常設するとなるとコンクリートのガスや湿気が出るなど、資料を傷める可能性がある。調査が必要である。

【横山】 宮内庁書陵部では、貴重書庫と書庫の二つを作ったことがあるが、貴重書庫には一年間物を入れなかった。貴重なものについては期間をおいた方が

よい。

【村 田】 三橋記念館の地下には埋蔵文化財が収められている。それらはどうするか。

【阿久津】 埋蔵文化財については、文化センター 3 階に収蔵スペースを作る予定である。

【村 田】 建物はいつごろから建ちはじめるのか。

【阿久津】 1 月 17 日に起工式が行われ、その後工事が開始された。

■(4)その他

小林館長から、中央公民館の文化センター移転にともなって、これまで中央公民館で開催していた郷土資料館企画展、主催講座なども、平成 26 年度以降は文化センターで実施する予定である旨報告があった。

質疑

【村 田】 三橋記念館はどうなるのか。

【阿久津】 まだ決まっていない。文化センターが入る商業施設を建設するイトーヨーカドー系のデベロッパー、モールエスシー開発株式会社に貸し付ける予定だが、同社がどのように考えているかについての回答は得ていない。

【村 田】 建物をそのまま利用するのか。

【阿久津】 建物は取り壊しとなる。そこに何かを作るのか、オープンスペースにするかの回答は得ていない。

閉会

以上会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

平成 25 年 3 月 26 日

署名人 村田 一二[㊟]